夕刊 磐城新聞
十一月二十日發行
發行所 磐城新聞社
〔日曜祭日翌日休刊〕

鑛山夜話 友子組合の事 3

テー・アイ生

從來渡坑夫と自坑夫とは全然別個のものであり、從つて交際も相違して居た

然しそれは徒らに負擔を多からしむるため現在では合同して交際するやうになり、又多くの鑛山が合同して交際所を設けるとか、たとひ別々に交際所を設けるにしても箱元交際は聯合するといふ合同の氣運を示しつゝある

○

友子交際の中、最も費用負擔を加重するものは不具癈疾者の共濟であり、小鑛炭に於ては殊に之が劇しい

從つて負擔輕減を計るため最近多數の鑛山が聯合して交際所を設立し不具癈疾者のみは之に委託し、各鑛山共同で費用を負擔するやうになつた

○

不具癈疾者には友子協議の上、寄附帳又は奉願帳を與へ、之を受けたものは全國鑛山を歷訪し義捐金を受けるもので、各鑛山聯合して交際所を設立した場合はそれ丈け數が減じ救濟を受けることも少くなる

此傾向は友子組合が時代の進運に適せず、漸次衰退することを物語つて居るものではあるまいか

○

前述の如く箱元交際は費用を加重するものである處からこれを謝絶する方法もある

それは或る交際所と他の交際所が箱元交際をしないことを通告し交際を絶つものである

これは殊に北海道、東北地方に多く、大正七年既に三十有餘を算したと謂はれて居る

○

友子組合の一員となるには一定の形式に從ひ取立を受ける必要がある、取立とは坑夫として承認されることで即ち坑夫に出世する意味である

それには先づ一定の技能を必要とし、舊習によれば三年三月十日掘子として修業せねばならない

取立式は年二回を定時とし臨時に行はれる場合もあるが、その山の役員隣山の代表者等數十人立會の下になされる

○

交際所には

一、箱元交際のみをなす物

一、山中交際のみをなす物

一、前二者をなすもの

の三種があり、之の幹部には箱元、大當番各一名、當番頭、當番、議員各數名があるが、任期は當番は五日乃至十日で他は半年又は一年で選任方法は一般選擧によるものである

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『試作』(1) 巖男

○川下の闇に吸はれて流燈の人魂如き灯影ゆらげり

○流燈會の仕掛花火に廣々と照らし出されし川の大いさ

○東京に移りて未だ日の淺く病み居る兄は吾を戀ふなり

○病こやる兄を訪ねて慰むる言葉も知らずにじつとだまりつ

◎病床に倦みたる兄にレコードを買はんと歩む淺草の街を

小評 流燈會の歌は以前本紙上だつたか類型の歌を見たことがあつた。この歌は取材上別に新奇な點もないが何となく印象的なところが捨て難い。但しこの流燈會やその他の歌で說明的なところが多くあるのは遺憾である。病兄を見舞ふ三首中では最後の一首が佳い

潮聲硯靜抄帳

秋晴 二葉

秋晴や火焔のごとき曼珠沙華

草花の中の野菊を手折りけり

暮れかゝる野菊に少し風のあり

芋汁 文狂

芋汁に髮の伸びうし十三夜

久方振りに夜を更して

後の月看護の着せる小夜着かな

好晴三日いさゝか小康

こゝろみの杖もとかしや秋日和

隣人

長谷川武士

つれづれは友となりてもなぐさめよ

病みふす人の宿をとひ

月

はだへさす風にすゝきもなびきをる

寒月淋し今宵一人で

旅

秋ふけて行方定めぬ一人り旅

今宵何處に宿るらん

夕暮淋し村はづれ

誰に語るか川のせゝらぎ

前會の今日

○

朝床にきけば殖えゆく雀の聲、土の上には霜深からむ 神戸節

屋臺店腰から下は冬の風 微塵子

11月21日

△將門下總に叛く(天慶二)△一休禪師遷化(文明一三)△各國武官滿洲視察の途に上る(昭和六)△滿洲問題上提の聯盟理事會開かる△日本新聞協會二十周年記念大會を東京で開く(同七)△ソヴイエト聯邦の世界一大飛行機K七號完成、ハルコフ附近で試驗飛行中墜落大破、乘組員十七名慘死(同八)

島山(六)

野村吉司

で一同はしばらく秋風に吹かれながら平野を見下してゐました。稻山のあちこちを區切つて、青い畑や、こんもりと一群の樹木にかこまれた村の家の藁屋根なぞが見えます。小川が帶のやうです。白い街道が小川を縱切つて町の方へ續いてゐます。自轉車に乘つた人が蟻のやうに見えます。白い砂煙を捲きけてゝ乘合自動車が走つて來ました

少年達はすぐ元氣を恢復しました。そして天狗の事なぞは、いつの間にかすつかり忘れてしまつてゐました

ミーン、ミーンと蟬がしきりに啼いてゐます。みんなは駈け廻つたり、ふざけ合つたりしました

『今晩町のキンキ座へ芝居がかゝるんだぜ』

『國定忠治の劍劇だぞ。ゴゴイなあ』

すると少年達は手にした棒切れを振り廻して劍劇の眞似をやり初めました

『寄るな、寄るな、寄らば斬るぞ!』

『何をコシヤクな』

『あんちやん、今晩、國定忠治見に連れてつとくれよ』

モリ君は早速交渉してゐます

『ウン、ウン』

平太郎さんは氣の無い返事です

『松茸があるぞ!』

『エツ、どれ〳〵』

『ある、ある、こゝにもあるぞ!』

『なんだ、それ毒茸やぞ…!』

『これ毒茸と違ふなあアあんちやん』

モリ君はどうもあんちやんに甘えてばかりゐます

×

さて一同は松茸だの栗だので懷をふくらませて歸途につきましたが、天狗の事なぞを思ひ出す者は一人もありませんでした

講談 戶隱奇譚 山の怪秘 (44)

丸山寛雄作 眞木浪畫

拷問堂(八)

物置部屋は、最前お豐を納めたがん像を吊り上げた所である

『もう大概にして下しませうせ。あの身體ぢや、まだ二三度は使ひものになりますよ』

『それもさうだ。ぢや、い

ゝから下せ』

英蓮がかう命ずると、英仙は岩の杭に卷きつけて置いたがん像を吊るす綱を解いた

する〳〵と細長い鐵の箱は、床上に下りた。待ち構へてゐた英蓮は、鍵を持つて觀音開きの扉を開ける

見れば中に入つてゐたお豐は色蒼ざめて、しかも立つた姿ではあるが、意識を失つてゐるやうにも見えるこの狀態を豫期してゐたのか英仙は、英蓮が扉を開けるや、直にお豐の前のめりになるのを防ぐため背中をもつて行つて、お豐をぴたりと押しつけるやうにした

從つて、意識を失つた身體ではあるが倒れない

『ぢや、後手に縛らなくても?』

『あゝよし。どうせ、あの中へぶちこんでおくんだ』

英仙は、その言葉を聞くか聞かぬうちに、もうお豐を背負つて、更に次の部屋に入つた。一枚の板戸が岩壁にはまつてゐる。これを無造作にはねて中へ入る。矢張り岩穴になつてゐる。が下り道ではなく、胎內潛りといつたやうなところ苔蒸した岩の廊下、細くはあるが相當に奥が深い

『待て、火を持つ俺の方が先に立つから』

英蓮は、小さな松火に火を點じたのを片手に持つて背後からついて來た

『何、大丈夫ですよ、いつも通ひつけてゐる場所です』

英仙は、英蓮の聲に構はずお豐を背負つて、奥へと歩いてゆく

お豐は、感覺を全く失つたらしく、ぐつたりとなつてゐる

とある突き出た岩の角まで來ると、英仙は立ち止まつた、そこには三尺四方位の頑丈な板わくのはまつた石牢のやうな所が出來てゐた

英蓮は、松火を一寸、英仙にあづけて、懷中から合鍵を取り出して、ガチリ、錠前を拔いた、わくを手元へ引く蝶番ひの錆ついてゐるやうな開けにくい戶口である

中は暗闇、じめ〳〵した岩の穴である

英蓮は、お豐の身體を抱くやうにして、戶口へ運び英仙は、足の方を支へて中へ入れた、中は餘り廣くないらしい。お豐と同じ運命に遭つた人々の、白い顏のやうなものも二つ三つ見ゐる、が勿論暗闇であるから果してどんなものであるかはつきりしない

英仙は、お豐を入れた序に中をあらためるやうに樣子を窺つたが、再び牢の木戶をピタリト閉ぢ、英蓮が錠前を差す

ポタリ、ポタリ、岩の狹間から眞清水の滴が落ちるだけで、他には何の氣配もない。たゞやけに大きい二つの入道坊主が濕つた岩壁へ松火の光で映つてゐるきりであつた

それから二人は元來た方へ引返した

がん像の部屋に來た二人は、その中の最下部にある抽斗のやうなところを開けて見た。皿のやうな白い瀬戶物が入つてゐる。その中には鮮烈な血潮のやうなどろどろしたものが溜つてゐるではないか

『これは、うまく取れたよ』

『矢張り新しいのに限りますね』

『英仙、では今の奴に炙を据て、傷口を癒しておけ』

二人は、皿を手にのせてにや〳〵北叟笑みながらその中を覗き込んだ。これへ更に藥草を加へ、かくして靈驗陀羅尼水は製造されるのであつた

入營兵送別

けふ平と夏井で

平町では今二十日午前十時半より縣社子鍬倉神社に於て今年度入營二十六名に對する奉告祭を執行、同十一時から聚樂館に於て、尙夏井村でも同日午後一時から小學校忠魂碑前で何れも送別會を開いた

派出所開所式

小名濱町及漁業組合費で竣功した諸願巡查派出所の開所式は來る二十三日午前十時から擧行

小名濱町會

昨十九日開き海面稅決定及同町觀音作地內に設置の町營火葬場敷地買收の件を附議

クスリはホシ ★H

健胃整腸劑 ホシ胃腸藥 特大二・〇〇 大一・〇〇 中〇・五〇 小〇・二〇

消化劑 ホシ胃腸錠 三九錠 〇・五〇 一五錠 〇・二〇

胃腸整理藥 ホシチヤコール錠 三〇〇錠 一・〇〇 一三〇錠 〇・五〇

(1)「ホシ胃腸藥」は芳香性、辛味性、苦味性等の健胃劑を適當に配劑し、消化機官の活動を促進せしむるものであります。

(2)「ホシ胃腸錠」は澱粉消化酵素たる「チアスターゼ」と蛋白質消化劑なる含糖ペプシンとを各々四〇%づゝ含有し、藥劑それ自身が直接に食物の消化に任ずるものであります。

(3)「ホシチヤコール錠」は活性炭素の錠劑でありまして、胃腸障碍の原因たる有毒瓦斯、毒素等を吸着して體外に排出します。

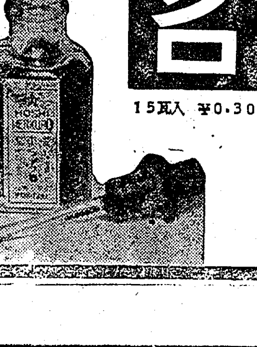
(4) 藥劑常識としてはこの三型が胃腸障碍に對する三つの治療法を示すものであります。

(5) 即ち消化器に向つて命令したり、おごしたり、すかしたりして十分に其の機能を發揮せしめ健全なる胃腸を保たしむるもの「ホシ胃腸藥」。消化不良を救助して胃腸機能を恢復せしむるのが「ホシ胃腸錠」。胃腸內に有毒有害の物が存在する時、悉く之を吸着掃蕩するものが「ホシチヤコール錠」。

外傷と皮膚病の家庭常備藥 ホシマークロ

◇主治効能 創傷、腫物、濕疹、とびひ、凍傷、蕁麻疹、皮膚搔痒症、しらくも、はたけ、たむし、いんきん、みづむし

15瓦入 ¥0.30



ヴイタミンB劑 ホシB・G

脚氣諸症最新藥 二・〇〇 一・〇〇 〇・五〇

◇本劑一錠は玄米三百瓦(約二合)の含有するヴイタミンBに相當します

◇本劑はヴイタミンB以外にも重要營養素を多量に含有するを以て脚氣の根本治療に適切であります

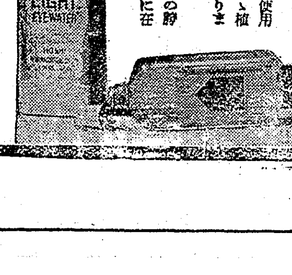
ホシオールライト目藥

(1) 文化人間としての目藥の任務は收斂、消炎、消毒、防腐の作用を持つべきものであることは說明を要せぬ所でありますが、問題は原料の選擇にあり、そして又一時の治癒を除かんがために强烈な藥劑などを用ひて將來の禍因を作つてはならないとであります。

(2) しますになほる「ホシオールライト目藥」は、「ホシ」の研究室が、「植物性の物を主食とする國民にとつては植物性の藥劑が適切であるべき筈である」との見地から、研究し製劑したる目藥であります。

(3) 日本古來からの目藥は凡て植物を使用致しました。「めぐすり」と稱せらるゝ植物の名も此處に原因を持つのであります。即ち、「ホシオールライト目藥」の誇りは、純日本的なものであることに在るのであります。

(點眼容器入) 〇・二〇 〇・三〇



ホシ目藥

東京・五反田 星製藥株式會社

ホシチエンストアー平支部

ホシ藥舖

平町三丁目三〇 電話四二九番

都計＝平小鐵＝運河 多望な小名濱の將來
躍進の諸工作著々進行

地方待望の小名濱築港工事はこれと相呼應する平小鐵道の敷設計劃と共に目下着々進められ來年度には外部的工作の一切を了し、十一、二の兩年度には最終工事たる港內二萬五千坪の浚渫工事を濟まし愈々完成の運びとなるので同町ではこれに伴ふ寄港船の輻湊から現在の小名川の改修に際し大運河を開鑿すべく計劃を樹て明年度に於ても極力これが實現方をその筋に陳情する筈であるが內務省築港事務所では同運河開鑿の前提として小名川の河口改修に際し同所より元河口に至る幅員二十五米の運河を設け更に之から東岸約五千坪の埋立を今年度內に完成し、更に西部一萬五千坪の埋立も明年度中に完成すると同時に二千噸級の大形汽船が橫づけ出來る岸壁も明年度早々着手しこれ亦年度內に竣功する見込みであり、平小鐵道、都市計劃の實施、運河設備と商港都市小名濱町の將來は愈々有望視さるるに至つた

平小鐵調査本格化
けふ本省首腦官來郡

最近好轉しつつある平小鐵道敷設に關し此程兩町を中心とした附近の物資關係の下調査に基く再調査のため鐵道省東京建設事務所長長屋係、及同省東京建設事務所技師岩田實の兩氏は今廿日午前省用自動車で來平驛長室に於て晝食後青沼町長面接後直に小名濱に向つた

圖書館を建るので 町有地は貸せぬ
青果取引場所當て外る

平町の現勢に相應しい圖書館の建設に就ては青沼町長が過般來これが費用、設置場所につき種々考慮中の處場所は既報の如く南漸發展の町勢に稽へ將來中心地たる平團体事務所東脇廣場を最適地と目論み目下種々下準備中なので此程平町三丁目高野正三氏が青果取引所を設置すべく願出た向發五ケ年間該町有地借地願は昨十九日開かれた土木委員會により却下された

庭球十四雄
入山と磐城洋灰 廿五日對抗試合

入山庭球部では來る二十五日同台の山コートに於て四倉セメントを迎へ對抗試合を行ふが地方斯界の兩雄十四組(各七組出場)の爭覇として非常に期待されて居る

平驛の不勞所得 一日平均九圓弱
半期間の入場券收入調べ

ホームへ入れた丈けで五錢になる不勞所得とも云ふべき平驛の入場料去る上半期分は

月	枚數	金額(圓錢)
四	六、一五三	三〇七、六五
五	四、九四四	二四七、二〇
六	五、三三〇	二六六、五〇
七	四、六二一	二三一、〇五
八	七、一三六	三五六、八〇
九	三、八六七	一九三、三五

何と三萬二千九十一枚、この金額千六百四圓五十五錢前年同期に比し二百五十五枚十二圓七十五錢增で半期間通算一日平均百七十七枚三分弱八圓八十六錢强に當り、夏季歸省者の送迎等で最も多い八月は二百三十人十一圓五十錢、最少の九月すら百二十九人約六圓四十五錢を上げてゐる

渡邊信組に 精巧な農具
けふの實演好成績

渡邊村信用組合では此程約六百圓で改良農具籾摺機を購入したので今二十日同村農會で實演したが同機は稻扱から脫穀俵裝迄一切を仕上げる精巧なものであると

鮪豐漁の快報
磐城丸からの無電で 江名濱に人氣湧く

黒潮關係から豫想外れの薄漁に終つた秋刀魚漁を見切り有望な鮪漁に移つた郡下の大形漁船は目下何れも宮城縣金華山沖合に出漁中だか昨十九日同沖合八百哩沖合で探漁中の本縣指導船磐城丸から小名濱試驗場に入つた無電によると江名町盛厚丸は目下同沖合千五百哩沖合で鮪の豊漁とあり今明日には更に二千哩の沖合へ出航する筈で、これが情報の入つた同町では何れも豊漁旗の入港を心待ちの態である

秋刀魚安値
漸次南下して 漁場の近接が因

近來兎角小物ばかりの處へ不漁續きの郡下各濱は秋刀魚漁も愈々終末季に入り茨城、福島兩縣沖合の魚族も漸次南下して現在では茨城或は千葉縣銚子沖合七、八十哩の地點で豊漁を傳へられ日歸りの手安さで獲れる處から相場も地方の六尾十錢に比し八尾乃至十尾位である

大學講師崩れの怪辯 一萬二千圓をせ占む
平支部の豫審廷で調べ上げた 惡傈な金融魔太田の犯行

吸血鬼全貌

昨報―文書僞造行使、公正證書原本不實記載行使、詐欺、商法違反で平支部の豫審を終結し平支部の公判に付された東京市荏原區中延町九〇一永井武三方居住福山市櫻町一二七生れ元東京市大森區山王一ノ二七七八居住日大講師太田徹夫(四五)の吸血鬼然たる行爲は全く智能犯の最尖端を行つてる形ち下關係調書は既に數千丁を數へ被害の如何に廣汎に亘るかを頷かせてゐる、彼が惡の營みは最初一昨年中東京市豐島區池袋一ノ五七七北豐島病院長高山雅治氏を煽て上げ私立學校設立計劃等を種に甘言を以て多額の出資をなさしめ以來數回に亘り一萬五千餘圓を搾り上げ再復昨年八月中昨報帝都證券並に帝都融資なるインチキ金融會社を設立證券會社の代表取締役に奉り上げて之亦高額の出資をなさしめ、度々の强要に財を傾け悉くした高山がより以上の出資を拒むや營業繼續不能なる目下前記二會社を極めて營業狀態優秀にして將來有望なるものの如く宣傳し、地方の資産家に取入つては三十株以上持てば重役、又は支部長にすると欺き、乘つた十六名の支部長をして廣範圍に株を募集せしめ拂込み金を捲上げた上鐚一文貸出さず地方の被害のみでも

江名町馬目國太郎氏千百二十五圓(九十株)小名濱町熊谷寅次郎氏三百七十五圓(三十株)平町松崎安氏六百二十五圓(五十株)等々外三十七名

あり、外に千倉町を中心とした千葉縣、飯田町を中心の長野縣、その他群馬、栃木、東京の各府縣を股にかけ總額一萬一千八百餘圓(千百餘株)の巨額に上り、被害者は實に二百數十名に上つてゐると

猿智慧失敗
小爲替を直し損ね元も子も沒收さる

昨報―遊廓に登樓遊興費を改竄の小爲替券で支拂はんとして其筋に突き出された平町鎌田町居住無職飯野村下荒川生れ前科三犯阿部運次郎(四二)は去る十日平局で一圓と十錢との小爲替を組み、之に常習の改竄を試みて書き損ね十二日平局に書き替へを要求したが窓口局員に看破され沒收されてしまつたと云ふ失敗話も暴露した

中繼信激增
濱の活氣に 忙しい平局電信係

不漁續きの郡下各濱では數日來鰯の大漁で一齊に活氣づき各濱共老幼男女の總出動で活動中であるが之がため平局に於ける中繼電信は平常の五百未滿から一躍八百を突破し、發受二重の繁雜さから電信係は二三日來非常な繁忙を極めて居る

健康週間宣傳

來る二十四日より一週間の健康週間に際し平署ではポスター、宣傳ビラ約五千枚を管內全般に配布趣旨の徹底に努むると

參加千五百名の 郡青訓演習了る
昨日大浦校で閱兵分列式

郡青訓聯合演習は既報の如く十八、九の兩日四倉、神谷間に於て郡下四十數ケ青訓所約千五百名の生徒を動員して行はれたが、第二日は午前七時より一勢に發動して華々しく攻防戰を開始、大浦村鹽木部落南端に拂曉戰を展開、同八時三十分休戰喇叭に演習を終了、兩軍共大浦小學校に集合、九時廿分より閱兵分列式を行ひ同三十分終了、大井川審判長の講評、學務部長代理長瀨教育課長の訓示、福島聯隊區司令官眞山大佐、木村大浦村長、新妻四倉町長(代理)鶴岡四倉署長の祝辭、青訓歌合唱、篠山聯合會長の挨拶あり萬歲三唱、正午解散した

祝辭

今や皇國の鴻業愈々其歩武を進め東洋平和の礎石益々堅きを加へんとするの途上外に虎視眈々たる隣邦の策動は之れを阻害せんとし內不良分子の潛行的行動は國民の結束を破らんとし、殊に我が縣下は冷害に禍せられ最大の苦境に陷るの秋に方り黎明床を蹴つて起ち相共に剛健なる心身の鍛錬、體得に蹶起せる石城健兒の壯擧は正に敬獎に價す願ふに國礎を堅め不良分子を殲滅し經濟的不況を打開し以て隆替を決するは諸士の雙肩にあり、諸士宜しく自重自愛其大成を期する爲切に健鬪を祈る、聊か所感を述べて祝辭とす

福島聯隊區司令官
步兵大佐　眞山周二

一俵の出荷無く 白米共同販賣休止
相場は兩三日强含み

明廿一日の石城販聯の白米共販は新米の出廻りと籾貯藏の解除により相當の出荷あるものと期待されて居たが、解除籾は古米の缺乏、農家の賣り急ぎと米價下落を口實とした商人の買占めとにより既に賣り盡され、新米は目下出廻り初めのためと、商人の賣米缺乏のため十圓八十錢內外のザラ賣りが行はれて居るらしく今回は一俵の出荷もなく中止するが地方の相場も前記の如き理由からか玆兩三日强氣を示して居る

愈々今日の公判で 殺意の供述を飜す
新山の殺人事件

双葉郡新山町大字前田字善能寺日屋乘農石橋宗助(五二)に係る殺人事件公判は今二十日午前十時より平支部に於て中島裁判長係り、關口香西兩判事陪席、吉岡檢事關與、佐藤勇辯護士立會、磐女四年生約百百名その他傍聽席滿員の裡に開廷された、事實審問に於て宗助は『殺す氣はなかつたが今となつてはその氣でやつたどいはれても仕方がない』と述べ、裁判長に豫審、檢事局の陳述により追求され『初めから殺す氣はなかつたが斧を揮り上げた時にはその氣になつた』と肯定し、豫審調書の事實認めたが辯護士補充訊問を申請して被告に注意した所から前述を覆して殺意を否認し、辯護人より證人として宗助の世話役ともいふべき同町天野景政を召喚する事を申請し正午過ぎ休憩に入る

極力昔の友を庇ふ
友人愛の佐藤辯護士

竹馬の友のため辯護の役を買つて出た東京市日本橋區久松町に法律事務所を置く佐藤勇氏に所感を叩けば新山の小學校時代の親友である宗助は、町場の者のためにいじめられる自分達をよく庇つてくれたものだ、少年時代の思ひ出としては彼が斯く義俠心に富んでゐた事で教育の少かつた事と環境のためにあんな事になつたが相當教育して滿洲にでも送れば義人村上氏にもなれば又肉彈三勇士にもなる男であつた、自分は新聞で彼の事件を知り天野を介して辯護を屆出たのだが既に殺意なしと陳述を覆へさせたから辯論は人情論のみに止めると眉間に友人愛を漂せながら極めて自信に充ちた口調で語つた

求刑は懲役七年
言々血の惨む減刑論に 心打たれた傍聽の女生

午後一時再開、吉岡檢事立つて罰情すべき點あり、被告の周圍よりは靈にも歎願書が來て居ると情狀斟酌懲役七年を求刑佐藤辯護士は前記の如き被告人との關係を述べ三十幾年ぶりに見る往年の我等が庇護者は形影喪落の被告として今法廷に見る時、これ以上言ふことが出來なくなつた、先にも殺意を飜してゐる、傷害致死の最長期に執行五年の猶豫を附して頂き度いと言々句々何れも友情より迸り出る熱辯に傍聽の女學中生には感泣するものさへあり閉廷した、判決は來る二十七日午前九時

投槍
投書歡迎

郵。便。不。足。税。に。懷。疑。

◇最近平局から配達された官製ハガキの表面に、差出人が宛名に確信が無かつたと見えて『適當に配達願上候』と云ふ註文の文句が記してあると云ふ廉で三錢の不足税を徴收された

◇尤も受取らなければ問題は無かつたのであるが受取人たる當方の全然關知せぬ郵便官署に對する注意や希望の文句が因で不足税を負擔せねばならぬとは近來不合理も甚だしいので早速局へ掛け合つた

◇處が局では　前記の文句が郵便規則第十五條の所謂『送達上郵便官署に必要なる注意をなす語辭又は記號』に該當せぬから不足税を徴するのが當然であると云つて承知しない

◇解釋の當否　は姑くた預りにするとしても同時に配達された自分の處と紛らはしい宛名(先方では其の實在がはつきり判つてゐないらしい)の分には同樣の餘事が書いてあるに拘らず最初若松局で扱つて符箋回送された此の分は何等のお咎めがない

◇即ち後者は　郵便官署に對する規則第十五條の必要な語辭記號として扱はれ前者は適々正當に當方と云ふ受取人があつたから其の文句が不必要な文句であると云ふ融通無礙の解釋かも知れぬ

◇見知らぬ人　間の郵便官署に對する意思表示が之に因つて何等の利益を被らぬ善意無過失の民衆に祟るとは一寸之こそ本當に受取り難い飛ばつちりだ、賢明な戸石局長の御示教を仰ぐ

(田町懷疑生)

刑。務。所。入。り。叶。ふ。
厄介な只飲老爺

去る十六日夜平署へ監獄入りを願ひ出た變人新潟縣中浦原郡小合村小屋場八二六前科十四犯農押味悦策(五四)爺は所望叶つて今日愈々送檢された

同人は去る九月七日一年の刑を終へて福島刑務所を出獄し今度こそは眞人間に働く心算りで歸郷したが娑婆の風に吹かれると持ち前の地がねを現はして同月二十四日家出し新潟、福島兩縣下で約百件の只飲みを働いたが不思議にも警察へ突き出されぬのみか親切な言葉をかけられるので業を煮やし去る十六日四倉町から平町古鍛治町飲食店澤渡屋事加藤信忠方で酒一升を平げ逃げ出したが追ひかけさうもなく此の分では刑務所入りも出來ぬと斯く自首に及んだもの

給仕二名募集
十五六歳身体强健の者自筆の履歴書携帶希望者來談あれ
本社

盜。少。年。捕。は。る。　昨十九日深更平町松ケ岡公園內四阿に大風呂敷を背負ふた擧動不審の少年あるを平署大谷刑事が取調べると右は同町揚土一五大谷秀人(二五)假名―で同町大工町石井米店に雇はれ中島城跡長谷川某方留守宅より現金六圓在中蟇口一個を竊取した外今春來空巣専門に町內三十九軒を荒した事自白目下取調べ中

江。名。農。倉。利。用。宣。傳。　江名町信用組合販賣購買利用組合では此程建設した農業倉庫利用宣傳のポスターを昨十五日配布した

記。帳。怠。慢。に。お。灸。　內郷村大字御厩字上宿一二四古物商菅議義(四八)は去月八日同村佐々某より古綿約三十貫匁を買入乍ら記帳を怠り此程平區より略式で罰金三圓

吉。野。家。追。善。寄。附。　平町新田町藝妓置屋吉野家では昨十九日死去した主人渭野音吉(五三)氏の遺志により今日左の如く寄附した
卅圓―助成會、十五圓―同町靑年會、十圓―磐城訓盲院、同―同町火防組

佑。賢。生。徒。見。學。　磐城佑賢學舍明春卒業生五十七名は明二十一日午前零時五十四分平發にて松本、岡部兩講師引率、二泊三日の豫定で見學の爲上京すると

誤叱府

◇某大新聞ゴシツプ子の傳ふる處によれば、最近大藏省の賀屋興宣主計局長に或る人が『毎日々々豫算を削減するなんて厭やなこつてせうな』と尋ねたり慰めたりすると、當の局長案外平氣なもので『なあに濡れ手拭を搾るのと同じで搾れる丈け搾れば良いんだから面倒は無いよ』と澄まし込んでゐた。とある、憾慶調子で濡れ手拭にされた平町の古川改修などこそ良い面の皮だ

二十一日
日出 六、二二　月出後 四、一四
日沒 四、三二　月沒前 六、一七
滿潮 前五、五〇 後四、二五　干潮 前一一、〇五 後一一、三〇

新十一月廿一日　水曜　舊十月十五日　丙申　赤口　收　箕宿

諸判定總部
東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神籤部

▲一白の人　兎角不安に閉されて落付きのなき日病注意▲二黒の人　行く先に塞がりの生ずる日旅行金談皆な凶▲三碧の人　新天地に活躍して永遠の基を建つるが吉し▲四綠の人　生氣盛にして希望亦成るべき日飲食に注意▲五黄の人　內外多端なる日又失費多ければ氣を締めよ▲六白の人　せい實滿身に横いつすれば長上の引立益加はる▲七赤の人　順序正しく進まるゝ時は立身出世の兆あり▲八白の人　進むを知りて退くを忘るれば時には過ちあり▲九紫の人　意志堅固なれば有終の幸福を受くる事あり

廣告

ラヂオとデンキの店
古山電氣商會
平町二丁目 警察署通り

看護婦生徒募集
本院に於て看護婦生徒六名を募集す希望者は履歴書持參の上本院へ承合せられたし。
磐城共濟病院